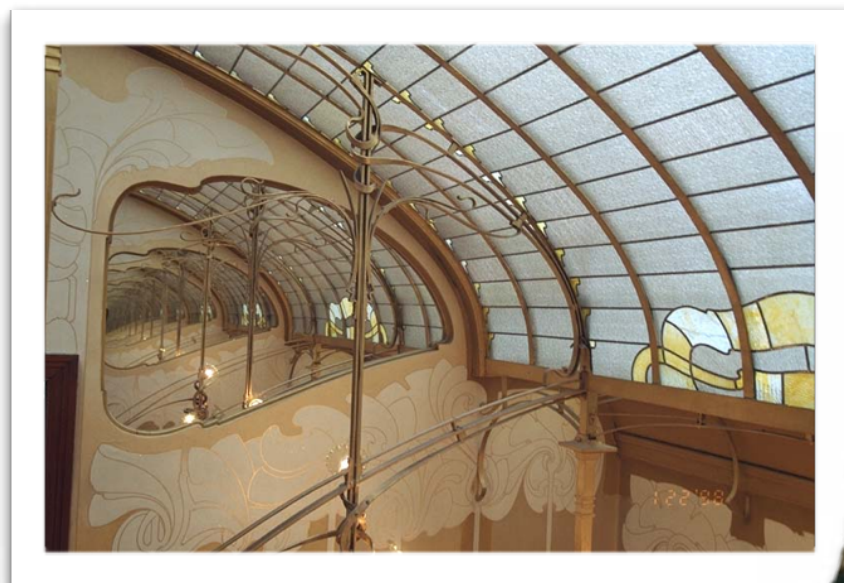


ビクトール・オルタ自邸



ベルギー ブリュッセル



オルタの自宅とアトリエは隣り合わせた建物。オルタの家は現在は博物館になっていて見学ができ、しかも写真をとることができる。

間口の狭い家だが、内部はけっこう広く感じる。玄関を入ると目の前に階段があり、ホールから階段下層は大理石のインテリア。アールヌーボーの階段手すりは鉄の平鋼でつくっており、材質としては単純だがそのデザインはやはり圧巻である。

中二階はダイニングで、床だけでなく壁までタイルが貼られている。随所に木だけでなく鉄骨を用いた柵や化粧がある。そこからまた半階上がったところがリビングになっていて、かなり広い印象を受ける。ダイニングのつくりと比べるとかなり



落ち着いた雰囲気だが、家具はやはり優美なアールヌーボーである。

そこから階段を上っていくと、最上部の屋根も化粧されたガラスになっていて、そこからやわらかい光を取り入れている。半階ずつ上っていくと寝室などがあるが、それほど激しいアールヌーボーはなくて、壁紙はウィリアム・モリスの草の模様の壁紙に似たものだった。最上階にはベランダもあり、またサンルームもあった

やはり、アールヌーボーは古典主義にもまさる作りすぎの装飾建築だった。ただ、美しさは古典の範疇にもモダンの範疇にも存在しない、歴史上もっとも優美で神秘的で、しかも形態としてのバランスの良さをみせるものだと確信させられた。デザイン史の中で最も美しいもの・・・それがアールヌーボーである。

